

● 世界の主な火山活動

平成 24 年（2012 年）10 月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。

エトナ（イタリア）（図中A）

2日の夜から、7月と8月の噴火と同じ場所からストロンボリ式噴火が始まった。火口内では溶岩流や溶岩噴泉も発生した。その後、徐々に活動は活発になり、6日夜に火山性微動の振幅が増大するとともに、噴火活動も激しくなった。活動は7日未明に最高潮に達し、居住地域からも強い火映が見られた。火口縁を超えるような溶岩の噴出も見られた。活動は7日04時30分から低下しはじめ、翌日には、ここ数週間で最も落ち着いた状態となった。

フエゴ（グアテマラ）（図中B）

9月に引き続き噴火活動が継続しており、7日に火山性微動や低周波地震が観測されるなど活動が活発化し、断続的に爆発的噴火が発生した。鳴動や空振も観測され、噴煙は山から南西方向へ流れ、各地で降灰が観測された。

8日以降は爆発的噴火に加え、たびたび溶岩流が発生しており、最大で800m流下した。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館のGVP（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

